

対談
書店フリベにおける「猫」の役割などについて。
その2
ねこ村 (TSUTAYA 寝屋川駅前店)
でんすけのかいぬし (セントポールプラザ書籍店)

●プロフィール

ねこ村さん・・・TSUTAYA 寝屋川駅前店 (大阪府寝屋川市) に勤務。文庫紹介のフリーペーパー「ぶんこでいず」を毎月1回発行。「A4判の用紙、裏表両面に、新刊情報、というか、本への愛が、隔から隔まで、一分の隙もなくあふれんばかりに、というかあふれ気味にぎゅーしり。絵・文とも、描き込みぶりとかけられた熱量がすごくて、毎号、ひと通り目を通し終わるころにはすっかり圧倒されている。店内の棚にスペースを設け、フリベで紹介した本を並べるなど、売り場との連動も忘れない。現在流通している新刊書店フリベのうち、筆者が知るものなかでは、もっとも「熱い」1枚。」(洋泉社発行『本屋へ行こう!』内特集「書店員がつくるフリーペーパーがおもしろい!」から、ライター・編集者の空犬太郎氏の紹介記事から引用)

でんすけのかいぬしさん・・・セントポールプラザ書籍店 (東京都) に勤務。猫の「でんすけ」氏をメインキャラクターとしたフリーペーパー、「本屋でんすけ にゃわら版」を毎月1回発行。「素人の余技とは思えない描き文字やイラ

の臍臓をたべたい から始まる本の話ペーパー』(双葉社 註2)もそんな気持ちで作りました。“おお! この本面白かった! 他に何か読めるかもしれない。けど何読んだらいいのか、分からない。”という主に若い人に向けたペーパーですね。“本意外に読めたぞ!”という若い人たちにもっと読書の愉しさを感じてほしい。これも理想であり、私の目標。です。

D 理想のフリベは…特に無いかなあ。「にゃわら版」の主演はあくまで“でんすけ”なので、かいぬしである“私”の“色”が出ないこと、あとは読みやすいこと。まずは中身を最後まで読んでもらうために読み手を気遣えるところは徹底的にやりたいです。せっかく良い文章を書いても読まれないのでは意味がありません。もっと読み手に寄り添えるように。あえて理想は、と挙げるならそこですかね。あと、フリベを作りたい人は、お客様に愛されるフリベを作りたいと思うなら頑張ってる方がいいと思います。が! 私自身が毎月ツライので、基本的にはハードルを上げるような発言は控えたいですね。内容が読み手である“お客様”にとってクオリティの高いものであれば単発で出そうが、続けようが、いろんな人に

ストの腕を、フリベにふるう美術系書店員(造語)は書店界に少なくないが、でんすけ氏もその一人。イラストや描き文字のクオリティと、切り取ればそのままPOPに使えるバランス感覚抜群のデザインのフリベは、一度目にしたら忘れられない。読み上げるとわかる語呂のいいタイトルも秀逸だ。でんすけ氏に、あちこちの版元から、販促物用イラストの声がかかっているのも当然と思える。フリベ界に現れた新星。」(前出同誌・空犬太郎氏紹介記事から引用)

大盛堂・山本 (以下 Y) …では、周囲の反応についてですが。

ねこ村 (以下 N) 180~200部毎回刷ってます。お客様の反応は配布日~1週間、10日ほどで100部ほど一気にはけます。あとはパラパラと無くなっていくときもあれば、ドーン!となくなるタイミングが数回にわけてあるような時も。お客様への認知は広がったと思います。コミックや、ライトノベルしか買わない方々も「ぶんこでいず」をレジでさっと持って行かれるときは“やったー!”と思います。

でんすけのかいぬし (以下 D) 同業者はどうでしょうかねえ…、アドバイスをくれる人もいれば、北海道や東北から東京に来たついでに会いに来てくれる書店員サンもい

意見を聞きつつ気軽に(気楽に)作ってみればいいと思います。評判や自分の気持ち的にムリそうならやめればいいのだから。

N ただ、でんすけさんも続けてるから、凄いや。私無理だから。あのクオリティ。

D 決して“熱血”ではないけれど、実はものすごく工夫して作ってます。だからこそ時間がかかって毎回ヤダヤダ言ってます(笑)

N そうだね。熱血ちゃうよね。私は熱血だからほんと真逆ね!

D こんなにヤダヤダツライツライ言いながらフリベ描いてる人も私くらいな気が…。

N 辛いのは辛いから正直でいいんじゃない?私は辛い時もあるけどそんなに嫌じゃないよ。嫌だったら多分やめてるから。

D あと“小野(正嗣)の七光り”

【註3】と言われないようにするのが目標です!

Y そうですか(笑)さて最後のまとめにいきましょう。「あなたにとってフリベとは?」長くていいので一言でお

らっしゃいます。また「にゃわら版」置いている店舗サンからは、あっという間に無くなるってくださることも。とてもありがたい。

N 「ぶんこでいず」もバックナンバーをしっかり束にして持ってレジに並ばれるお客さまは、本当に感動します。ありがたいことです。

D 出版社の方は私があまりにも「にゃわら版」を宣伝する気が無いので、私の知らないところ宣伝してくれてますね(笑)

Y 両方ともぱっとみて目立つし、読んでみたいと思わせるものがあるからですね。

N 同業者の反応は、いつもたのしみにしてくれている方もいて下さいますし、うちの店でも配布していい?とってくださる稀有なお店さまにも感動しています。ただ一方で配布が苦しくなったらやめてもいいんだよ、という気持ちもあります。業務の負担にはしてほしくないです。

D そらあ、そだね。

N 出版社の方も「ぶんこでいず」で紹介してた〇〇(他社本)読んだよー!とわざわざ声かけてくださる方は、出版社さんというより、「ぶんこでいず」を読んでいる

願います。

N 家に持ち帰ってする仕事はいけません!でもやりがいはあるかもしれません。無いかもしれません!私にも分かりません!でも「楽しい」「好き」「オススメしたい!」これらとあと「努力」と「根性」。あ、結構あるな(笑)

D (店員サンに指さして“コレ欲しい”と言えることも含めて) レストランのメニュー表。

N それ! あるあるですね。間違いなく私の耳にも入りますが「問い合わせきたよ」って。

Y フリベの極意はあくまでも本を買ってもらう、というところですね。お二人とも。

N そこは一緒だったね。

D もちろん。

Y 書店フリベ界が誇るにふさわしい「ねこ」対談でした。今後もご活躍期待してます!

【註2】6月に発売された『君の臍臓をたべたい』(住野よる 双葉社)は、発売当初から全国の書店員の支持を集めるなど注目され、各店舗の文芸書のベストセラーにもなる。

【註3】今年6月発行「本屋でんすけ にゃわら版」において、でんすけさんと芥川賞受賞作家の小野正嗣さんとの対談を掲載し、各界から注目される。

お客さんか読者のような感じがします。純粋に本の話が出来て楽しいですし、励みになります。

Y 大げさに褒められるよりも、そっと耳打ちで、くらいの方がよい感じでしょうか?

N それは嬉しいですね。あれよかったですよねー!うんうん! みたいな。仕事じゃないんですよ。でも、そんな方とは、仕事したいなあとも思える。

D 私はファンレター貰ったのが嬉しかったです。“褒められること”はどんな褒め方でうれしいですが、こういうカタチに残るものだと、くり返し読めるので励みになります。

N 嬉しいですねー、それは。

Y あと、お二人の理想のフリベとはどういったものでしょうか?

N フリベを作らなくても本を買う人がたくさん増える。とかがある意味理想かもしれません。ただ、理想のフリベって言われると、お客さまと本とが出会えるきっかけを、もっともっと演出出来るようなフリベです。きっかけにもなった“本っておもしろい”っていうところにもつながるかもしれません。今年出版された小説で住野よるさんの『君

大盛堂書店 2F通信

Vol.53

今号では前号に引き続きねこ村さん、でんすけのかいぬしさんとの対談を掲載。読んでね。(と本)

F150-0082

東京都渋谷区宇田川町22-1

※ WEBサイト「版元ドットコム」でも閲覧できます!